

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

2021/03/31

りそなホールディングス 市場企画部
りそな銀行 国際事業部

◆ 今月の相場見通し

※各マーケットコメントは3月31日（水）9:00現在
※休日の実績は前営業日

		3月30日現在 (矢印は2月末比)	4月の予想
USD	ドル・円 (円)	↗ 110.36	↘ 107.00 ~ 112.00
	ドル高材料出尽くし当面は108-110円台を中心にもみ合い予想		
EUR	ユーロ・ドル (ドル)	↘ 1.172	↘ 1.15 ~ 1.20
	ユーロ・円 (円)	↗ 129.30	↘ 126.00 ~ 131.00
コロナ再拡大やワクチン接種の遅れからユーロは弱含み			
GBP	ポンド・ドル (ドル)	↘ 1.374	↘ 1.32 ~ 1.40
	ポンド・円 (円)	↗ 151.64	↘ 145.00 ~ 154.00
ワクチン高接種率は好感も、EUとの対立などが押下げ			
AUD NZD	豪ドル・円 (円)	↗ 83.84	⇒ 82.00 ~ 86.00
	NZドル・円 (円)	⇒ 77.05	⇒ 76.00 ~ 80.00
グローバルな景気回復期待で底堅いが、ドル上昇基調で上値重い			
株式 相場	日経平均 (円)	↗ 29,433	⇒ 28,500 ~ 30,500
	グローバルな景気回復期待継続も、上昇に一服感		
	NYダウ (ドル)	↗ 33,067	⇒ 31,500 ~ 34,000
	財政やワクチン期待は継続も、左派的政策懸念から上値重い		
長期 金利	日本 (%)	↘ 0.091	⇒ 0.00 ~ 0.15
	米金利に連れて上昇してもYCC枠組みの中で上昇余地は限定的		
	米国 (%)	↗ 1.703	⇒ 1.45 ~ 1.85
	拡張的財政は金利押し上げも、増税が嫌気され横ばい圏		

◆ 今月の注目ポイント

更なる米経済対策の議論の行方に注目

テーマ	注目度	今月の注目ポイント
景気 動向	◎	【コロナ感染再拡大】3月以降欧州の一部の国を中心にコロナ変異種などが再拡大しており、行動制限の再強化やロックダウンの延長が実施。日米などその他主要国に拡大する可能性には注意。
金融 政策	○	【金融規制】3月にSLR規制の緩和措置が終了したが、今後もトランプ政権下で緩和された金融規制の巻き戻しの機運が高まる可能性には注意。併せて、金融規制当局の人事にも注目したい。
政治	◎	【米国の経済対策議論】3月に1.9兆ドル規模の経済対策が成立。更なる経済対策として、インフラ投資や社会保障・教育関連の拡充させるが、一方で歳入面では法人税やキャピタルゲイン税の増税に踏み込んだ対策案が発表される予定で、その協議の行方がマーケットの話題の中心になると予想される。大規模な経済対策は好感されるものの、増税に対するマーケットの反応には注意。

◆ 新興国通貨見通し

人民元・円	↗ 16.4 ~ 17.1	レアル・円	⇒ 18.0 ~ 20.0
バーツ・円	↘ 3.40 ~ 3.60	メキシコペソ・円	↗ 4.90 ~ 5.60
ルピア・円	⇒ 0.75 ~ 0.78	ルンブル・円	↘ 1.35 ~ 1.50
ルピー・円	⇒ 1.49 ~ 1.52		

◆ 今月の重要日程

1日 (木) 日 日銀短観 (3月調査)	16日 (金) 中 21/1Q GDP
1日 (木) 米 3月ISM製造業	22日 (木) 欧 ECB理事会 (結果発表)
2日 (金) 米 3月雇用統計	23日 (金) 欧 4月PMI
7日 (水) 米 FOMC議事録 (3/16、17)	25日 (日) 日 衆参補欠選挙
13日 (火) 米 3月CPI	27日 (火) 日 日銀金融政策決定会合
15日 (木) 米 3月小売売上高	28日 (水) 米 FOMC (結果発表)

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい

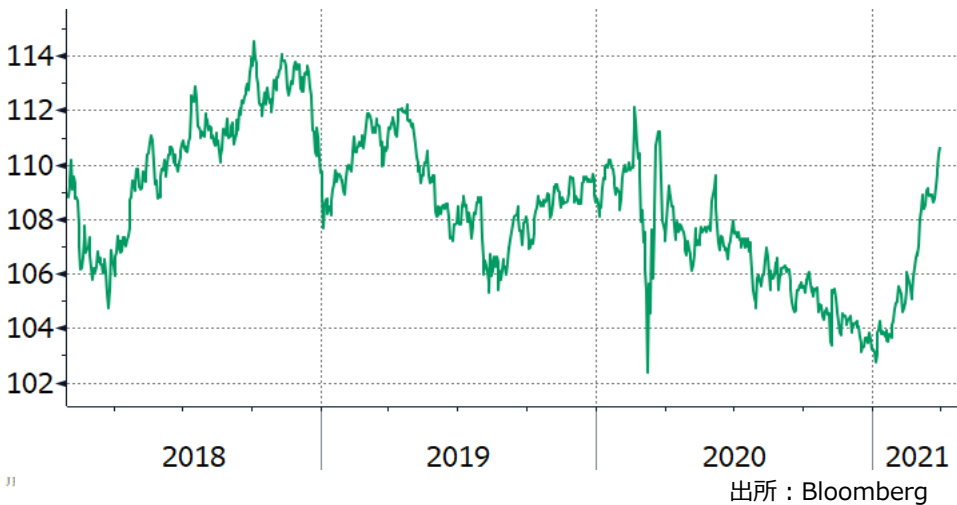


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

◆ 今月の相場見通し① 為替 (ドル・ユーロ)

ドル 円



米ドル円



ドル円は下落

107.00 – 112.00円

ドル円は110円超では売りも出て当面は108-110円台を中心としたもみ合いを予想

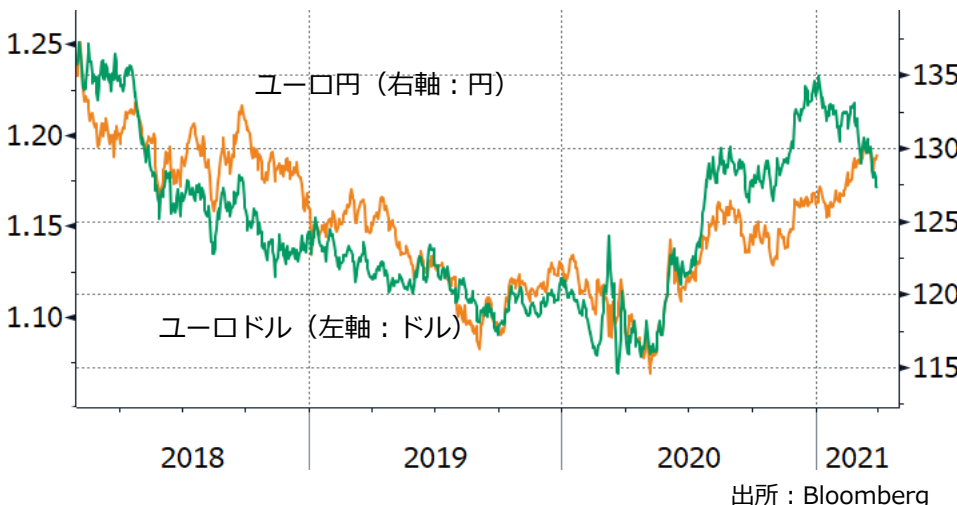
ドル円は米国の大規模経済対策に伴う米景気回復期待、それを受けた市場の米利上げ見通しの上昇と長期金利上昇を受けて、3月にレンジを切り上げた。この過程で円買いに傾いていた投機筋ポジションも解消され、ドル円上昇に拍車をかけた。

一方でドル高材料は足元では一旦出尽くしのようにもみえる。当部で年末にかけて目指すと想定していた110円の水準に既に到達。今後も米金利上昇時にドル円が上値を試す場面も出るだろうが、上昇余地は限定的と想定している。

円の要因を考えると、3月の金融政策会合の政策点検結果では「貸出促進付利制度」の創設など現在の緩和策を持続的なものとする調整が主となり、正常化はむしろ遠のいたといえる。リスク選好相場でドルが売られる場面でも円高圧力はかかりづらい。

ドル円は来年にかけては一段高をメインシナリオとみているが（P9参照）、当面は108-110円台を中心にもみ合うとみる。

ユ ー ロ



ユーロドル



ユーロドルは下落

1.15 – 1.20ドル

ユーロ円



ユーロ円は下落

126.00 – 131.50円

ユーロドル、ユーロ円はともに下落を予想

3月のユーロは、ドルに対しては下落、円に対しては横ばいとなった。欧州主要国のワクチン接種は、米国や英国に比べて遅れており、ドルやポンドに対してユーロは弱含んだ。また、欧州各国でのコロナ感染の再拡大もユーロ押し下げ要因となった。

4月もユーロは弱含みとみる。3月以降、フランスやイタリアを中心に欧州主要国でコロナの感染が再拡大し、行動制限の強化やロックダウンの延長などの措置が取られたが、いったん4月中旬頃に期限迎える。ただし、感染力の強い変異種の拡大なども見られ、感染者数が減少に至らない可能性があり、行動制限やロックダウンはさらなる延長となる可能性があることには注意が必要であろう。また、3月のECB会合では引き続き強いハト派姿勢を示し、欧州の金利上昇を抑制する方針が打ち出されており、欧州の金利の上値が重くなればユーロ押し下げに繋がるであろう。

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

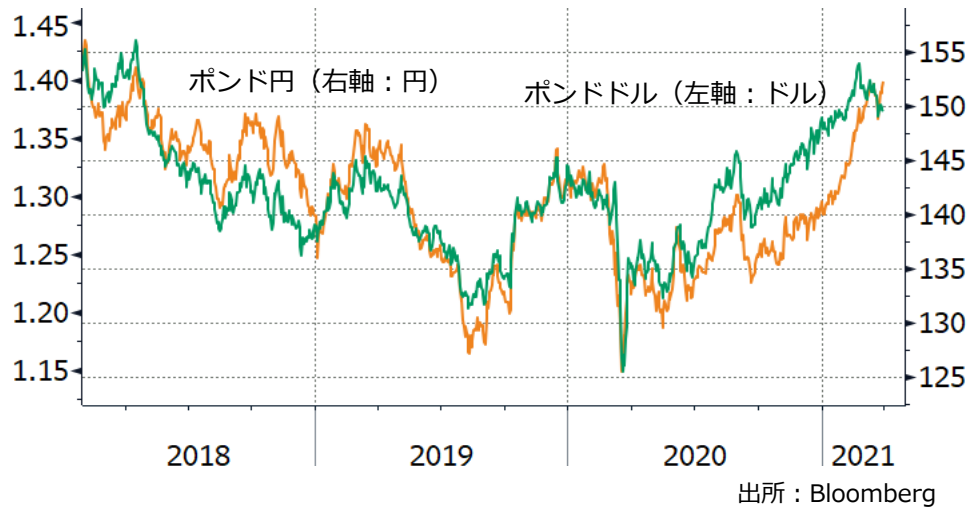


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

◆ 今月の相場見通し② 為替 (ポンド・豪ドル・NZドル)

ポ ン ド



ポンドドル



ポンドドルは下落

1.32- 1.40ドル

ポンド円



ポンド円は下落

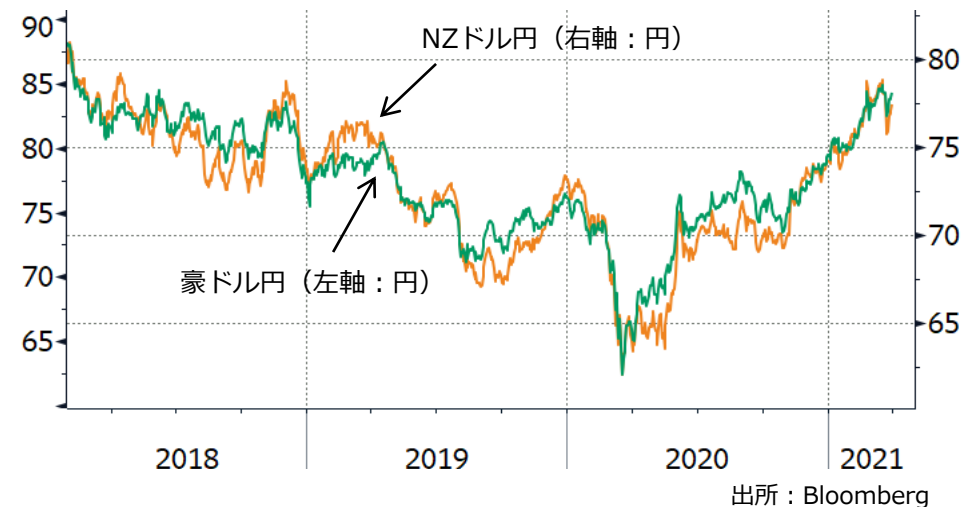
145.00 - 154.00円

ポンドドル、ポンド円はともに下落を予想

3月のポンドは、ドルに対して下落、円に対して上昇した。英国でのコロナ感染の一服やワクチン接種率が主要国で高いことなどが好感された一方、3月のBOE会合ではハト派色が強調され、足元の物価上昇率も市場予想に達しなかったことから対ドルでは下落した。

4月のポンドは対ドル、対円ともに下落を予想。コロナワクチンの接種率が主要国の中で進んでおり引き続き好感材料となる。ただし、足元でEUとの対立の激化や英国内で主要なワクチンとなっているアストラゼネカ社製のワクチンへの懸念に懸念が生じた場合にはポンドを押し下げる可能性がある。

豪 ド ル ・ N Z ド ル



豪ドル円



豪ドル円は横ばい

82.00 - 86.00円

NZドル円



NZドル円は横ばい

76.00 - 80.00円

豪ドル円、NZドル円は横ばいを予想

3月のオセアニア通貨は世界的な景気回復期待を受けコモディティ価格が堅調に推移したことを受け、底堅い推移となったが、米金利上昇に伴うドル高が上値を抑えた。豪ドル円は一時2018年2月以来初の85円を付け、NZドルも中旬までは上昇したものの、政府が利上げをせずに高騰する住宅価格を抑えるための新たな措置を発表、一部あった利上げ期待が剥落しNZドルは下落も、その後前月比横ばい水準まで買い戻された。

4月のオセアニア通貨は横ばい推移を予想。引き続きグローバルな景気回復期待が両国通貨を下支えするとみるが、米国金利上昇に伴い米国株が不安定化すれば、両通貨も上値を抑えられよう。豪中銀は早期の正常化に否定的な一方、NZは住宅バブル懸念から先行きの利下げには慎重姿勢を継続すると見られ、NZドルを下支えしよう。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい

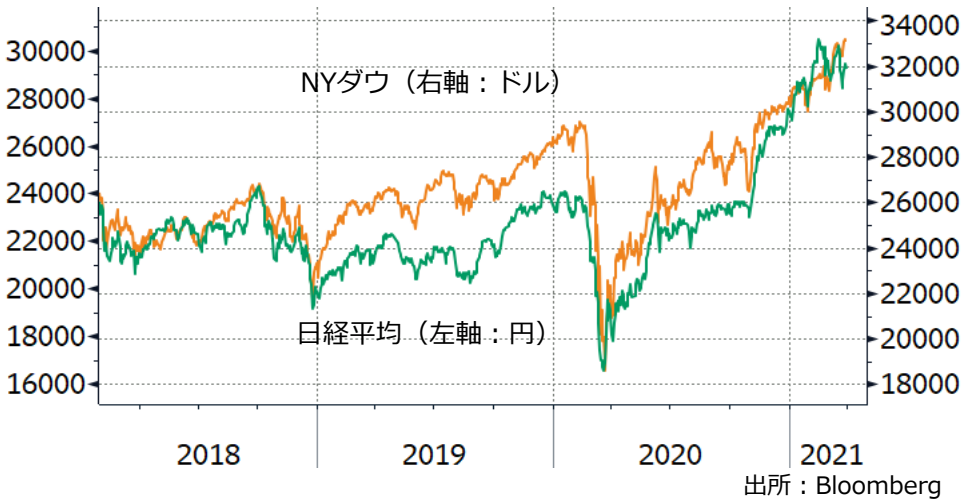


りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

◆ 今月の相場見通し③ 株式、長期金利

株 式 見 通 し



日経平均

⇒ 日経平均は横ばい

28,500 – 30,500円

日経平均は横ばいを予想

3月は米金利の急騰や、日銀のETF買入方針変更などを受け日経平均株価は上値を抑えられた一方、金融株の上昇などからTOPIXは底堅い推移となった。4月の日本株は横ばい推移を予想。グローバルな景気回復期待は継続するものの、米金利が一層の上昇した場合には米国株を中心にリスク資産が不安定化しやすい。また、米バイデン大統領のハネムーン期間も終盤に差し掛かるなかで、左派的な政策のマイナス面に焦点が当たると、上値は抑えられやすいものと見る。

NYダウ

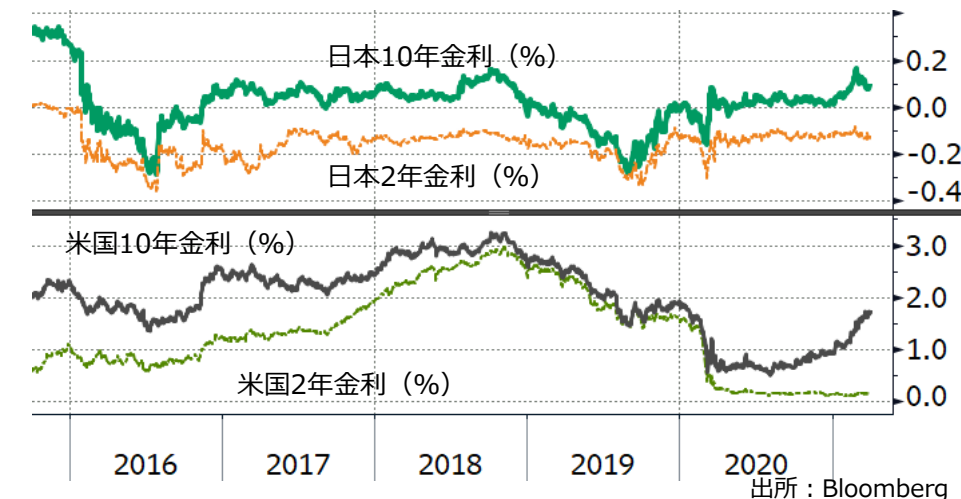
⇒ ダウは横ばい

31,500 – 34,000ドル

NYダウは横ばいを予想

金利上昇によりナスダック総合の上値が重い一方、景気回復期待が強い中で景気敏感株の比率が高いNYダウは上昇基調が続く。4月のNYダウは横ばいと予想。大規模財政やワクチン普及による景気回復期待は続くが見るが、バイデン大統領のハネムーン期間も終盤に差し掛かること、インフラ投資の材料出尽くしや増税等左派的な政策への懸念が上値を抑える。また3月末のヘッジファンドのデフォルトは大規模緩和の副作用的な動きを想起させ懸念材料は燦る。

長 期 金 利 見 通 し



日本国債10年

⇒ 金利は横ばい

0.00 – 0.15%

日本国債はもみ合いを予想

3月の金融政策決定会合では10年金利の変動幅が±0.25%の範囲内と明文化された一方で、イールドカーブ全体の低位安定を優先とし、大幅な金利上昇時の連続指値オペ制度の導入するなどハト派色の強い内容となった。会合結果を受け金利はじりじり低下。4月は米金利に連れて上昇する場面もあろうがYCC枠組みが意識される中で0.15%近辺では買い需要も強まるだろう。

米国債10年

⇒ 金利は横ばい

1.45 – 1.85%

米国債は金利横ばいを予想。

3月のFOMCではハト派姿勢が強調されたが、SLR規制の緩和措置の終了や景気の回復期待などから10年債利回りは一時1.75%まで上昇、その後中国との対立懸念から上昇幅をやや縮小した。4月はバイデン大統領が掲げるインフラ投資計画やその他歳出による拡張的な財政政策の継続、ワクチン普及などによる景気回復期待は金利上昇圧力、増税や中国との対立などネガティブな材料も散見しており、金利上昇は限定的と予想する。

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

◆ 今月の相場見通し④ 新興国通貨 (アジア)

		3/30		4月の予想	3月のレビュー	4月の見通し
中国	人民元/円	16.78	➡	16.4~17.1	ドル人民元はドル高進行に連れてレンジを切り上げ月末にかけては6.5台後半まで元安ドル高が進行している。一方、人民元自体の動きは底堅く対円や対ユーロでは人民元高の水準。1・2月の経済指標では春節時期の移動制限により小売売上がやや鈍化したものの、生産・投資の伸びは強く総じて堅調、人民元買いのサポートとなった。	3/5から行われた全人代では21年の成長率目標を+6.0%以上する保守的な見通しが示された。成長の質を重視した経済運営となり、回復速度は昨年来の急回復からはやや鈍化するとみられる。ただし雇用・所得環境が着実に回復するなかで、内需中心に回復基調は続き人民元は底堅く推移するだろう。ドル高地合いも徐々に一服するとみており、ドル人民元は下落を予想する。
	ドル/人民元	6.57	➡	6.45~6.70		
タイ	バーツ/円	3.52	➡	3.40~3.60	ドル買い戻しの流れが強まる中で、足元他のアジア通貨と比べてもバーツの下落率は大きくなっている。タイでは1年間にわたって続く非常事態宣言が更に5月まで延長された。反政府デモの活発化も宣言延長の一因とみられ、バーツ安進行には政治的背景も燃る。一方円安圧力も強く、バーツ円は上昇している。	ドルバーツはドル高主導で節目の1ドル31バーツを突破も、ドル高地合いは徐々に一服とみている。ただし非常事態宣言が続き、インバウンドの枯渇から経常収支が低調。また、インフレ率も低位に留まっていることから、金融政策も当面現在の低金利環境が続くとみられ、バーツに強気となる材料も乏しい。バーツ相場はもみ合いを予想、先行きは国内のワクチン接種や反政府デモの状況に注目。
	ドル/バーツ	31.25	➡	30.4~31.8		
インドネシア	ルピア/円	0.762	➡	0.75~0.78	3月のインドネシアルピアは米金利が上昇し、ドルが底堅い推移となったことから、弱含みで推移した。月末には国営石油会社の製油所で爆発があったと伝わったことも上値を抑えた。グローバルな景気回復期待から円安が進み、対円では底堅い推移となった。	米金利やドルが上昇していることや、引き続き同国の新型コロナウイルスの感染状況が高止まりしていることから、ルピアの上値の重い展開を予想。中銀は資本流出に伴うルピア安に対応するため金利を据え置き、またスポット為替市場や国内のノン・デリバブルフォワード、債券市場の3市場への「トリプル介入」を行うとしており、大幅な下落は避けられるものと見る。
	ドル/ルピア	14,480	➡	14,000~15,000		
インド	ルピー/円	1.50	➡	1.49~1.52	3月のインドルピーは前月末から米金利の急騰を受け上下に振れる場面もあったが、引き続き海外からの株式市場への資金流入は継続、総じて底堅い展開となった。但し、月末に米金利が再度上昇したことを受け、上げ幅を縮小した。グローバルな景気回復期待から円安が進み、対円ではインドルピーはほぼ一貫して上昇となった。	足元インド国内ではコロナ感染が再拡大しているが、インドは世界のワクチン生産の約6割を占め、国内接種優先の方針を打ち出している。また引き続き株式相場への資金流入が継続していることや、インフレ懸念からRBIは利下げに踏み込みづらく、ルピーの底堅い動きは継続しやすいとみる。一方で引き続き米金利とドルの動きには注意が必要とみる。
	ドル/ルピー	73.39	➡	72.0~74.5		

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

© 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

◆ 今月の相場見通し⑤ 新興国通貨（中南米・ロシア）

				4月の予想	3月のレビュー	4月の見通し
ブラジル	リアル/円	19.11	➡	18.0～20.0	3月のブラジルリアルは、ドルに対して下落、円に対して横ばい圏で推移。3月17日に開催されたブラジル中銀の政策金利決定会合では、約6年ぶりに利上げを実施した。利上げ幅は市場予想の0.50%程度を上回るとなり、リアル相場は月半ばにかけて上昇した。月末にかけてはコロナ感染者の増加などが嫌気され下落に転じた。	ブラジルリアルは横ばい圏を予想。国内の物価上昇率が高まっており、金融政策において利上げに転換したことはリアルを後押しするが、国内のコロナ感染者数は増加傾向にありワクチンの普及も遅れていることから上値余地は限定的とみる。
	ドル/リアル	5.77	➡	5.20～6.10		
メキシコ	ペソ/円	5.36	➡	4.90～5.60	3月のメキシコペソは、ドルに対して横ばい圏、円に対して上昇した。3月前半は、米金利の上昇によりメキシコと米国の金利差が縮小し、ペソからドルへ資金が流れたことでペソ押し下げとなった。一方、メキシコ経済は着実に回復基調にあり月後半にかけてペソは上昇した。	メキシコペソは上昇すると予想。2月前半以降、メキシコのコロナ感染者数は減少傾向にあり、引き続き経済の回復は進むと予想する。また米国では大型の経済対策が成立しており、米経済の回復の恩恵を隣国であるメキシコも享受できると考える。メキシコペソは緩やかに上昇すると予想する。
	ドル/ペソ	20.58	➡	19.5～22.0		
ロシア	ルーブル/円	1.46	➡	1.35～1.50	3月のロシアルーブルは、対ドルで下落、対円で上昇した。国内でインフレが加速し先行きの利上げ観測も高まっていた中で、19日に開催された金融政策決定会合では予想外に政策金利を0.25%引き上げられた。ルーブルは月内で上昇する場面もあったが、米国との対立などが嫌気され前月末比では下落した。	ロシアルーブルは下落すると予想。ルーブル高の一因となっていた原油価格上昇には一服感も出ており、先行きサポート要因とはなりづらい。米バイデン政権発足以降、米ロ関係の悪化に拍車がかかっており、さらなる悪材料となる可能性がある。
	ドル/ルーブル	75.86	➡	73.0～80.0		

© 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

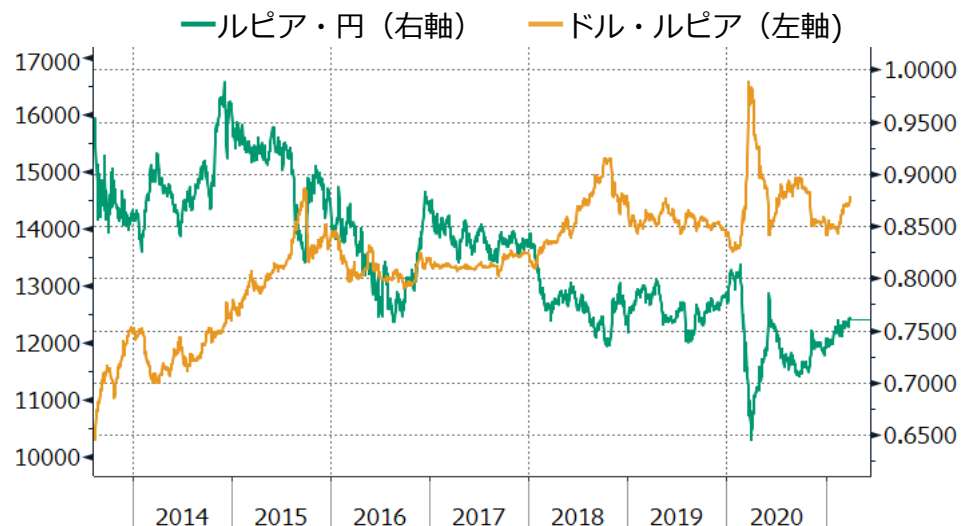
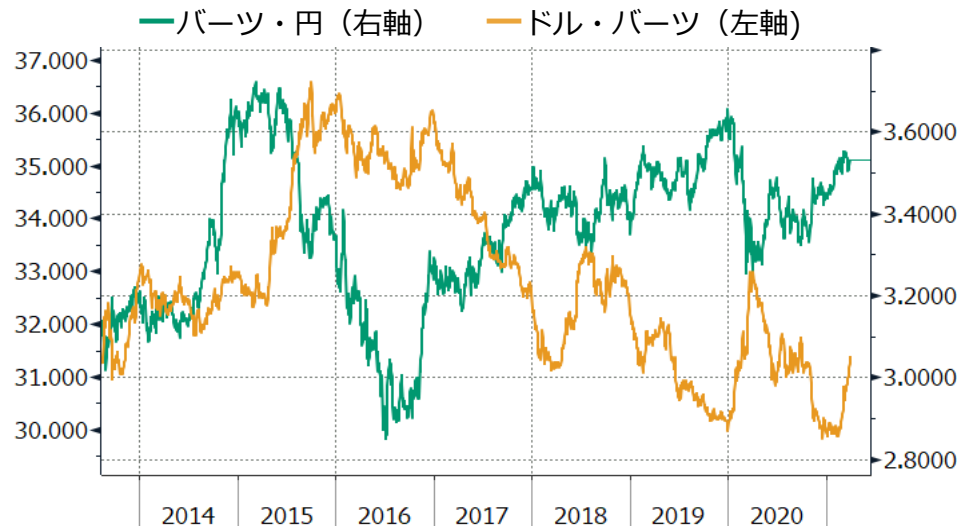
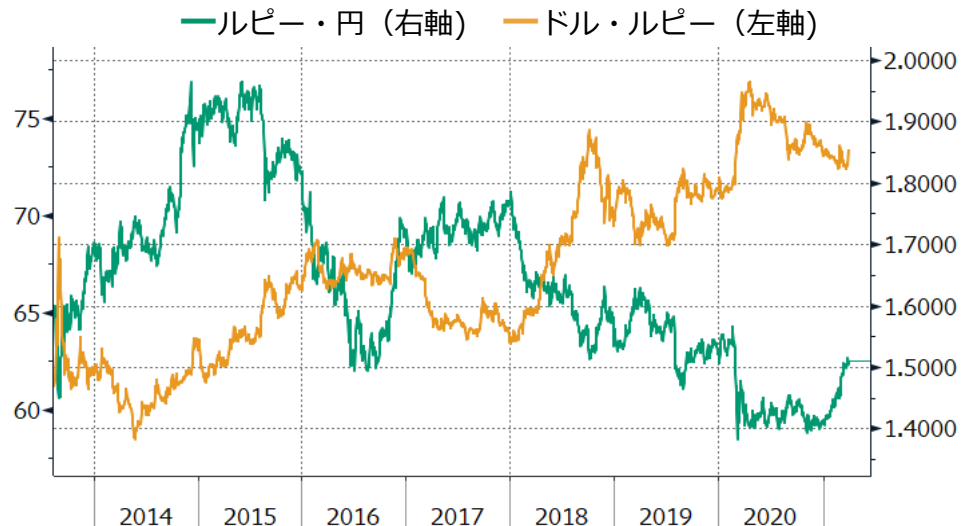
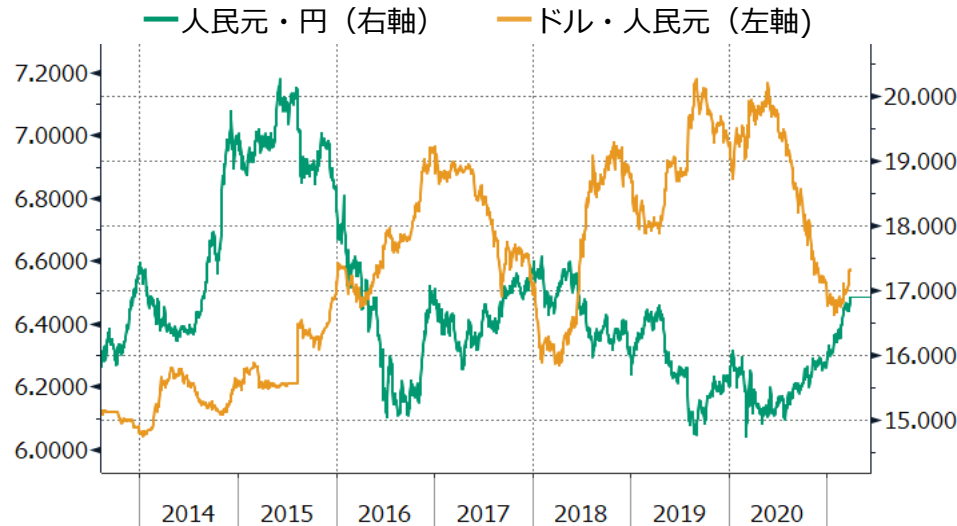
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年4月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

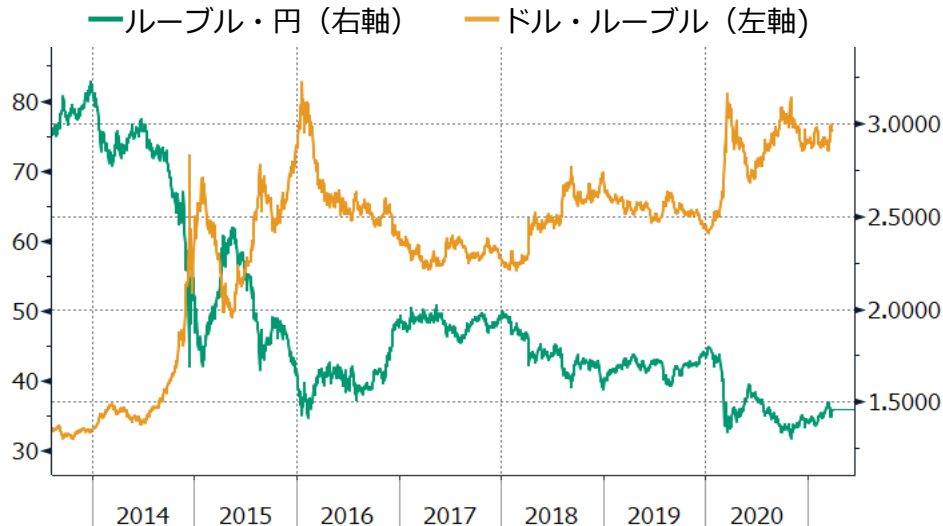
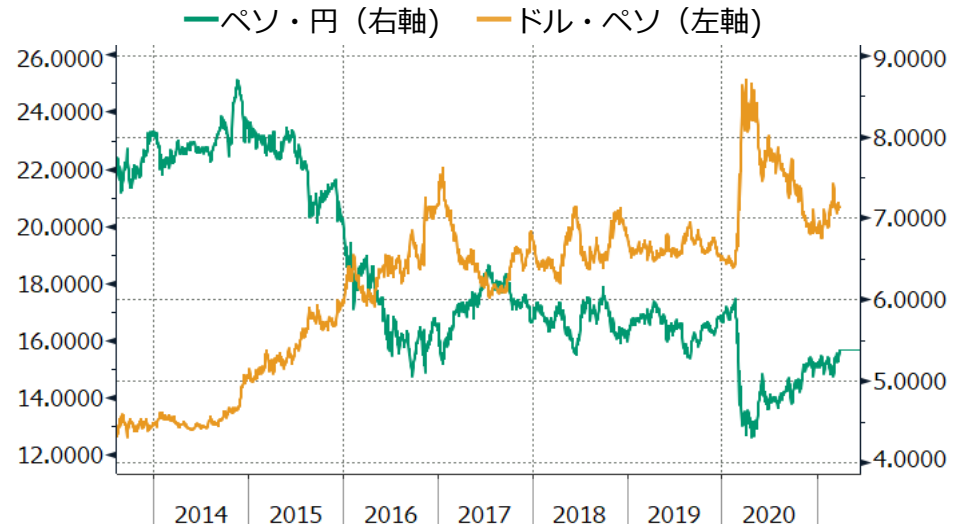
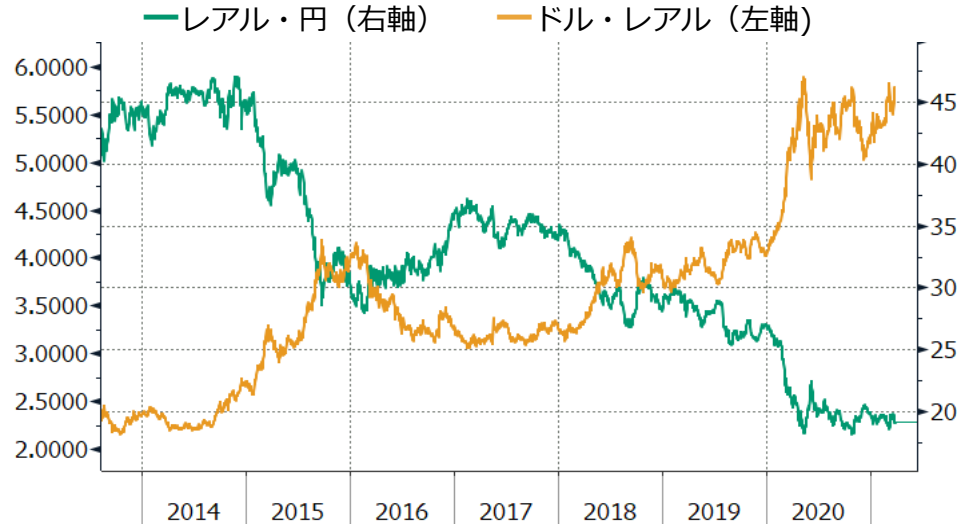
お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年4月号)

◆ 新興国通貨チャート



◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

◆ 年間為替見通し

		2021年			2022年	ポイント
		4～6月	7～9月	10～12月	1～3月	
ドル円	レンジ	105～112	106～113	107～113	108～115	目先はドル円上昇は頭打ちと予想。年後半は米国の金融政策やワクチン接種動向意識されドル一段高へ
	期末値	109	110	110	112	
ユーロドル	レンジ	1.12～1.20	1.11～1.19	1.10～1.18	1.08～1.16	欧州復興基金設立をきっかけとしたユーロへの期待はあるものの、基金設立における各国の承認プロセスの遅れやドル安の一服や各国の選挙などへの警戒感強く上値は重い。
	期末値	1.17	1.16	1.14	1.12	
ユーロ円	レンジ	121～132	119～130	119～130	119～130	主要国のワクチン接種普及に伴い、足元の英国の高い普及率の優位性が薄れることに加え、原油価格の上昇一服などもポンドの上値を抑えたとみる。
	期末値	127	125	125	125	
ポンドドル	レンジ	1.30～1.41	1.27～1.39	1.25～1.37	1.23～1.35	中国経済は堅調に推移するも、年内人民元の上値は限定的。米中関係の悪化は元安リスクとして留意
	期末値	1.35	1.33	1.31	1.29	
ポンド円	レンジ	143～154	139～152	138～150	138～150	グローバルな景気回復期待から底堅い動きが継続。中国との貿易摩擦の先鋭化には注意。
	期末値	149	146	144	144	
ドル人民元	レンジ	6.40～6.75	6.40～6.80	6.40～6.80	6.35～6.75	当面観光業を中心としたタイ経済の弱含みによりバーツは軟調となりやすいが、年末にかけ持ち直し
	期末値	6.55	6.60	6.60	6.45	
人民元円	レンジ	15.6～17.0	15.6～17.0	15.5～16.9	15.5～16.9	
	期末値	16.5	16.4	16.7	17.0	
豪ドル円	レンジ	80.0～88.0	80.0～88.0	82.0～90.0	82.0～90.0	
	期末値	86.0	86.0	87.0	88.0	
タイバーツ円	レンジ	3.35～3.70	3.30～3.70	3.30～3.75	3.40～3.80	
	期末値	3.50	3.45	3.50	3.57	

◎ 注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎ 注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

◆ マーケットカレンダー

	日本	米国	その他
4/1(木)	10年債入札	3月ISM製造業景況指数	(中) 3月製造業PMI
4/2(金)		3月雇用統計	
4/5(月)		2月製造業受注 3月ISM非製造業景況指数	
4/6(火)	2月家計調査 2月毎月勤労統計(速報) 30年債入札		(豪) 準備銀行理事会
4/7(水)		2月貿易収支 FOMC議事要旨	
4/8(木)	3月景気ウォッチャー調査 5年債入札		
4/9(金)		3月PPI	(中) 3月CPI
4/12(月)	3月企業物価指数	10年債入札 3年債入札	(中) 3月貿易統計
4/13(火)		30年債入札 3月CPI	(独) 4月ZEW景気指数
4/14(水)	2月機械受注	米地区連銀経済報告	
4/15(木)		3月小売売上高 4月NY連銀製造業景気指数 4月フィラデルフィア連銀製造業景気指数	
4/16(金)		3月住宅着工・許可件数	(中) 1-3月期GDP (中) 3月生産・小売・投資

	日本	米国	その他
4/19(月)	3月貿易統計		
4/20(火)	20年債入札		
4/21(水)		20年債入札	
4/22(木)		3月中古住宅販売	(欧) ECB定例理事会
4/23(金)	3月消費者物価指数	3月新築住宅販売	(欧) 4月PMI(速報値)
4/25(日)	衆参補欠選挙		
4/26(月)		2年債入札 5年債入札	(独) 4月IFO企業景況感指数
4/27(火)	日銀金融政策決定会合 (結果発表)	4月消費者信頼感指数 7年債入札	
4/28(水)	2年債入札	FOMC(結果発表)	
4/29(木)	(昭和の日)	1-3月期GDP(速報値)	
4/30(金)	3月鉱工業生産 3月住宅着工件数 3月労働力調査	3月個人所得・消費支出	(中) 4月PMI

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年4月号)

中国の動向-主要トピックス①

りそな銀行上海駐在員事務所

【2/26 ~ 3/4】

◎金融機関 2 1 年も不良債権増加の見通し

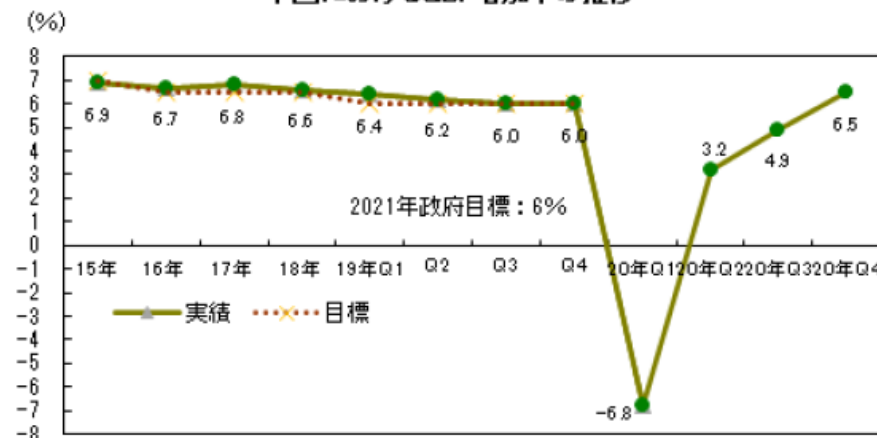
中国銀行保険監督管理委員会の郭主席は2日、金融機関が処理しなければならぬ不良債権が今年は昨年（3兆200億元）に比べさらに増加するとの見通しを示した。昨年の金融機関による融資額の伸び率は例年並みの水準（13%未満）で推移していたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により企業の資金繰りが悪化し、不良債権増加を回避できなかったと説明した。また、今年の作業方針について、実態経済への支援と金融分野における構造改革、リスクモニタリング、市場開放の推進などを挙げた。

【3/5 ~ 3/11】

◎2021年のGDP成長率目標6%以上

中国の李克強首相は5日、第13期全国人民代表大会（国会に相当）第4回会議で政府活動報告（施政方針演説に相当）を行い、今年の国内総生産（GDP）成長率を「6%以上」とする目標を表明した。昨年の政府活動報告では新型コロナウイルス感染拡大を受け、03年以来初めて目標を示さなかったが、今年は例年通り明確な数値を示した。また、今年の全人代は、恒例の政府活動報告や予算案に加え、国民経済の中期目標などを定める第14回5か年計画と35年までの長期目標が審議、採択される。

中国におけるGDP増加率の推移



月別CPIの推移(消費者物価指数)



◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

中国の動向-主要トピックス②

りそな銀行上海駐在員事務所

【3/12 ~ 3/18】

◎新5カ年計画「質の高い成長」を強調

中国政府は12日、国民経済の中期目標である新5カ年計画（2021～2025）の全文を公表した。期間中のGDP成長率目標は具体的な数値を示さなかったものの、研究開発投資の伸び率向上、GDP当たりのエネルギー消費量削減、「デジタルエコノミー」の重要産業がGDPに占める比率を25年には10%まで引き上げるとするなど、質の高い成長戦略に取り組む姿勢を明確にしている。また、米中貿易摩擦や新型コロナウイルス拡大による海外投資や貿易の先行きに不透明感が続く中、「国内大循環」と呼ぶ内需主導の経済運営を一段と強化する方針を見せた。

【3/19 ~ 3/25】

◎初の国際消費品博海南で開催

中国商務省などによると、5月7日～10日に海南省海口市で開催される第1回「中国国際消費品博覧会」に、現時点で海外69カ国・地域から630社が出展を表明していることが分かった。商務省の担当者は会見で、同博覧会は海南省を国際観光・消費センターへと発展させる目標につながるほか、対外開放の加速や、新5カ年計画の方針である「国内大循環」（内需拡大）の推進にもつながると説明した。上海において3年連続で開催されている「国際輸入博覧会」と比べ、今後どのように発展していくか注目されている。

主要経済指標

<月次データ>

項目	単位	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2
実質GDP成長率	%	-	-	3.2	-	-	4.9	-	-	6.5	-	-
消費者物価上昇率	%	3.3	2.4	2.5	2.7	2.4	1.7	0.5	-0.5	0.2	-0.3	-0.2
都市部調査失業率	%	6.0	5.9	5.7	5.7	5.6	5.4	5.3	5.2	5.2	-	5.5
輸出額	10億ドル	199.5	206.4	212.9	236.8	234.4	238.6	236.3	267.0	281.9	264.0	204.9
輸入額	10億ドル	154.4	144.2	167.3	175.4	176.2	202.1	178.1	191.4	203.8	198.6	167.0
経常収支	100万ドル	-	-	56,866	-	-	150,215	-	-	273,980	-	-
外貨準備高	10億ドル	3,091.5	3,101.7	3,112.3	3,154.4	3,164.6	3,142.6	3,128.0	3,178.5	3,216.5	3,210.7	3,205.0
主要政策金利	%	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35	4.35
対ドル為替レート	人民元	7.07	7.11	7.08	7.01	6.93	6.81	6.70	6.60	6.54	6.47	6.46

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：1年物貸出基準金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

(2021年4月号)

“上海下午茶”（上海からティータイム）

りそな銀行上海駐在員事務所

○上海 一般市民向けのワクチン接種を本格開始

上海では今週から、一般市民向けの新型コロナウィルスワクチン接種が本格的に開始しました。これまでは、医療、教育、政府、運送など密な接触が避けられない業界関係者向けの接種が優先的に行われてきました。

上海市政府によると、3月21日時点、累計88.2万人が接種済（計2回）と明らかにしました。

3月22日（月）からは、職業を問わず、18～59歳の市民が政府主導のアプリでワクチン接種を予約できるようになりました。また、25日（木）から60～75歳の市民もオンライン予約可能になりました。

なお、3月29日から、上海市在住の外国人向けの接種も始まると発表されています。

予約手続きは中国人とほぼ同じですが、中国社会保险に参加していない場合、100元の自己負担が発生するという点だけが違います。

報道によると、接種が完了した後、今まで防疫対応策の一つとして利用されている健康コード（QRコード）にも接種状況が反映されるようです。

○「三八婦女節」について

毎年3月8日が中国では「三八婦女節」（女性デー）であり、社会貢献や家庭奉仕について女性に尊敬と感謝の意を表す日となります。

ここ数年、「三八婦女節」という表現を正式な場では依然として通用しますが、「婦女」という言葉がやや古くて硬いニュアンスがあるせいか、私的な場では段々使われなくなり、代わりに「女神節」という表現が登場しています。

せめてこの日には女性一人ひとり誰かが女神になるくらいの気持ちで楽しんでいこうという願望が伝えられていると同時に、ある種のお買いもの祭り気味にもなりつつあります。

米国労働厚生省の統計によると、中国における女性の労働参加率は70%に近い水準に達しており、世界1位となります。にも拘らず、中国社会では家事や育児など仕事以外の生活面でも、女性に高い期待が寄せられていることも事実です。

「三八婦女節」にせよ「女神節」にせよ、女性としての自己価値実現や、より平等な社会環境の構築についてやってきた努力を、これからも続けていこうという気持ちを喚起できれば何よりだと思います。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ (2021年4月号)

タイの景気動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

◆タイ中央銀行が発表した2021年1月の主要経済指標（速報値）によれば、タイ経済は新型コロナウイルス感染第2波の影響で経済回復がさらに不均一となったが、全体への影響は感染第1波ほど深刻ではない。個人消費指数は前年同月比4.9%減とマイナス成長に転じた。工業生産指数は同2.8%減と前月並みの縮小。民間投資指数は同1.6%上昇。建設投資は縮小ペースが減速した。公共投資は前年同月比で増加が続いた。

◆タイ商務省によると、2021年1月の輸出額は前年同月比0.4%増の197億657万米ドルと、2カ月連続プラス成長。新型コロナウイルスワクチン普及による世界経済の回復期待や各国の金融緩和、財政出動等を背景にある。農産物・加工品の輸出は前年同月比3.7%増、工業製品は同0.9%増。ゴム手袋、自動車・同部品、携帯電話・同部品、コンピューター・同部品、家具の輸出は引き続き好調に推移した。市場別では、米国向けの輸出額が同12.4%増で最大。日本、中国、韓国向けも拡大した。

CLMV諸国（カンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム）向けは10カ月ぶりにプラス成長に転じた。欧州連合（EU）、中南米向けは減少した。輸入額は同5.2%減の199億896万米ドル。この結果、貿易収支は2億239万米ドルの赤字となった。一方、1月の対米ドル・バーツ相場は平均で1米ドル＝30.00バーツで、前月の30.07バーツ比わずかにバーツ高となった。

◆タイ国家経済社会開発委員会（NESDC）によると、2020年第4四半期の国内総生産（GDP）成長率は前年同期比4.2%減だった。前四半期の6.4%減から回復。2020年通年のGDP成長率は6.1%減で、1999年以降最低となった。2021年のGDP成長率予測を2.5%～3.5%増とした。

◆タイ商務省が発表した2月の一般消費者物価指数（CPI）は、前年同月比1.17%下落した。前年同月を下回ったのは12カ月連続。食品・飲料は同0.43%低下した。非食品は同1.60%下落。石油燃料は13カ月ぶりに前年同月を上回った。

主要経済指標

＜月次データ＞

項目	単位	2020/4	2020/5	2020/6	2020/7	2020/8	2020/9	2020/10	2020/11	2020/12	2021/1	2021/2
実質GDP成長率	%	-	-	-12.1	-	-	-6.4	-	-	-4.2	-	-
消費者物価上昇率	%	-3.0	-3.4	-1.6	-1.0	-0.5	-0.7	-0.5	-0.4	-0.3	-0.3	-1.2
失業率	%	1.0	1.0	1.0	2.2	1.9	1.8	2.1	2.0	1.5	1.5	-
輸出額	100万ドル	18,949	16,285	16,464	18,819	20,212	19,621	19,377	18,933	20,083	19,707	-
輸入額	100万ドル	16,486	13,584	14,785	15,476	15,863	17,391	17,330	18,880	19,119	19,909	-
経常収支	100万ドル	264	867	182	1,599	3,545	1,427	1,000	-1,476	-693	-673	-
外貨準備高	10億ドル	235.7	237.3	241.6	250.4	254.5	251.1	248.5	253.5	258.1	256.8	253.9
主要政策金利	%	0.75	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50	0.50
対ドル為替レート	バーツ	32.6	32.1	31.2	31.4	31.2	31.4	31.2	30.4	30.1	30.0	30.0

※ 対ドル為替レート：期末又は月末値 主要政策金利：タイ翌日物レボ金利

出所：Bloomberg

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。

◎注意事項をよくお読み下さい



りそな マーケットフラッシュマンスリー & アジア・新興国FXフラッシュ

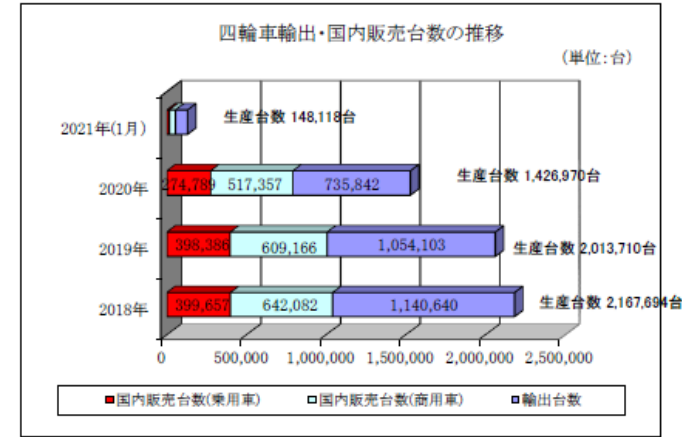
(2021年4月号)

タイにおける自動車産業の動向

りそな銀行バンコック駐在員事務所

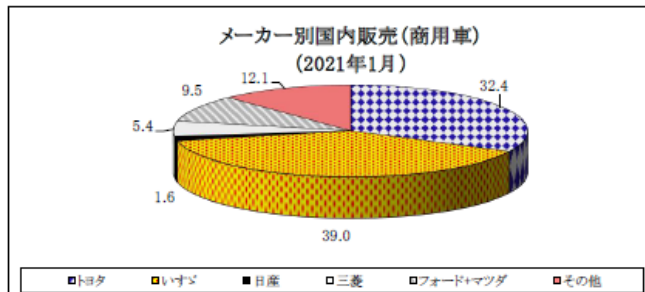
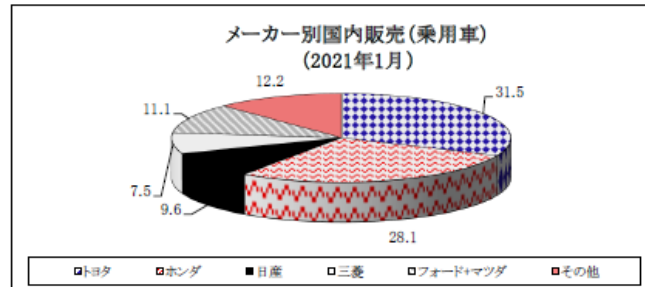
出所:タイ工業連盟 (FTI)

		2018年	2019年	2020年	2021年 (1月)	前年同月比 (%)	1月
【台数】 (台)							
四輪	生産台数						
	乗用車	884,609	804,340	542,437	53,609	90.2	53,609
	商用車	1,283,085	1,209,370	884,533	94,509	97.6	94,509
	合計	2,167,694	2,013,710	1,426,970	148,118	94.8	148,118
	国内販売台数						
国内販売台数	乗用車	399,657	398,386	274,789	16,104	55.8	16,104
	商用車	642,082	609,166	517,357	39,104	94.6	39,104
	合計	1,041,739	1,007,552	792,146	55,208	78.7	55,208
輸出台数		1,140,640	1,054,103	735,842	74,132	113.5	74,132
二輪	生産台数	2,063,076	1,948,480	1,615,319	165,874	101.7	165,874
	国内販売台数	1,788,323	1,718,587	1,516,096	135,641	93.4	135,641
	輸出台数	886,275	948,839	727,152	25,708	81.4	25,708
【完成車輸出金額】 (百万バート)							
四輪		594,810	545,968	410,912	41,435	128.4	41,435
二輪		61,654	69,933	85,802	7,536	121.2	7,536



出所:トヨタ自動車

		2018年	シェア (%)	2019年	シェア (%)	2020年	シェア (%)	2021年 (1月)	前年同月比 (%)	シェア (%)	1月
トヨタ	乗用車	112,394	28.1	117,708	29.5	68,152	24.8	5,073	73.6	31.5	5,073
	商用車	202,719	31.6	214,672	35.2	176,164	34.1	12,685	95.2	32.4	12,685
	合計	315,113	30.2	332,380	33.0	244,316	30.8	17,758	87.8	32.2	17,758
いすゞ	乗用車	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0.0	0
	商用車	177,864	27.7	168,215	27.6	181,194	35.0	15,248	106.7	39.0	15,248
	合計	177,864	17.1	168,215	16.7	181,194	22.9	15,248	106.7	27.6	15,248
ホンダ	乗用車	95,793	24.0	96,154	24.1	77,419	28.2	4,526	47.7	28.1	4,526
	商用車	32,497	5.1	29,679	4.9	15,622	3.0	1,131	58.6	2.9	1,131
	合計	128,290	12.3	125,833	12.5	93,041	11.7	5,657	49.6	10.2	5,657
日産	乗用車	43,991	11.0	35,809	9.0	27,120	9.9	1,550	41.9	9.6	1,550
	商用車	28,403	4.4	28,605	4.7	17,438	3.4	632	36.0	1.6	632
	合計	72,394	6.9	64,414	6.4	44,558	5.6	2,182	40.0	4.0	2,182
三菱	乗用車	31,594	7.9	38,879	9.8	22,363	8.1	1,210	46.4	7.5	1,210
	商用車	52,966	8.2	49,365	8.1	35,046	6.8	2,110	62.1	5.4	2,110
	合計	84,560	8.1	88,244	8.8	57,409	7.2	3,320	55.3	6.0	3,320
その他	乗用車	115,885	29.0	109,836	27.6	79,735	29.0	3,745	49.0	23.3	3,745
	商用車	147,633	23.0	118,630	19.5	91,893	17.7	7,298	90.2	18.7	7,298
	合計	263,518	25.4	228,466	22.7	171,628	21.8	11,043	77.3	20.0	11,043
合計	乗用車	399,657	100.0	398,386	100.0	274,789	100.0	16,104	55.8	100.0	16,104
	商用車	642,082	100.0	609,166	100.0	517,357	100.0	39,104	94.6	100.0	39,104
	合計	1,041,739	100.0	1,007,552	100.0	792,146	100.0	55,208	78.7	100.0	55,208



◎注意事項
当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客さまご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。